



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第三三九号〕

大寒<sup>たいかん</sup>

一月二十日

## 御火試・粥試神事

季節は最も寒さの厳しい「大寒」を迎えました。

さて、一月十五日は「小正月」。各地の神社などでは地域の氏子が集まり、「どんど火」が焚かれ、注連縄などが焚き上げられます。松阪の小阿坂地区にある阿射加神社<sup>あさか</sup>では十六日夜に、「どんど火」が焚かれ、そして市の無形文化財にもなっている「粥占い」が行われました。

「粥占い」は、境内にある「調舎<sup>ちようや</sup>」と呼ばれる建物で行われました。ここでは、「粥試<sup>かゆだめし</sup>」と呼びます。調舎に拵えた囲炉裏に、神社の宮司と添え役二人が座り、まず一年間の毎月の天候を占う「御火試<sup>おひだめし</sup>」が始まりました。月名の書いてある板に予め焼いた檜の割木の灰がおいてあります。この灰の色で宮司が、「晴」「雨」「半晴<sup>はんばれ</sup>」を判定します。「半晴」というのは、雨の降る日と降らない日が交互にくるという意味で、天気予報の曇りとは異なるそうです。ちなみに一月は「雨」、二月は「晴」となりました。

続いて、囲炉裏で炊いた小豆粥で「粥試」を行います。小豆粥を炊く鉄鍋にしこんだ三本の竹筒を出し、中のお米や小豆の入り具合で、早稲<sup>わせ</sup>、中稲<sup>なかて</sup>、晚稲<sup>おくて</sup>の稔りを占うのです。今年も三本ともお米も小豆もたっぷり入り、「大々豊作」と出ました。

なぜ、御火試と粥試、二つを占うのでしょうか。天候、とくに雨の降り具合と稲作の出来は関わりがあるためと、松本宮司に教えてもらいました。なるほど、稲作に雨は欠かせません。

小豆粥は、氏子たちに分けられます。私もいただく、小豆の甘みと粥の温かさが体にしました。この小豆粥を食べると一年無病息災といわれます。大寒の夜、久しぶりに元気をもらえたように感じました。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○『おかげ横丁 節分の市』

旧暦では、立春を一年の始まりとし、節分は現在の大晦日と同じように考えられていたため、昔から1年の幸せを願う様々な行事が行われています。

おかげ横丁では、各お店が一斉に福を呼び込み、町中が福でいっぱいになる「節分の市」を開催します。

と き／1月23日(土)～2月2日(火) 10:00～17:00 (催しにより異なる)

ところ／おかげ横丁一帯 ※諸事情により、内容が一部変更となる場合がございます。

### ●縁起の市

お面や福まめ、厄除けいわしなどの縁起物を揃えた賑やかな市です。

ところ／おかげ横丁内「特設屋台」

### ●苔玉【枳】づくり体験

日本人は、自然とともに暮らす生活文化をつくりあげてきました。節分の時期には、地域によって玄関先にヒイラギと焼いたイワシを飾ります。これは、「柊鯛(ヒイラギイワシ)」と呼ばれる日本の伝統文化の一つで、鬼を追い払う魔よけ・邪気払いの意味合いがあります。

この他にも、ヒイラギのようにあなたを守ってくれる植物がまだまだあります。そんな植物を使用して苔玉を作ってみましょう。

と き／1月23日(土)・24日(日) 9:00～17:00

ところ／おかげ横丁「孫の屋三太」前 特設屋台 (所要時間約30分)

講師／TOMOKO (めおと岩カフェ 苔玉作家)

料 金／苔玉【枳】づくり 2,500円(税込)～

ミニ盆栽づくり 3,000円(税込)～

苔テラリウムづくり 3,000円(税込)～

### ●鬼のお面絵付け体験

鬼は邪気や厄の象徴とされて、災害や病、飢饉(ききん)などを引きおこすものと考えられてきました。豆まきは、鬼を追い払うことで厄払いをし、無病息災を願う行事です。

節分の豆まき用に、鬼のお面を作ってみましょう。

と き／1月30日(土)・31日(日) 10:00～16:30

ところ／おかげ横丁「孫の屋三太」前 特設屋台 (1日15面限定)

料 金／1面 2,200円(税込) ※おかげ横丁のオリジナル枳と福まめ付き

## 五十鈴塾

### ○大土御祖神社の歴史について

皇大神宮摂社大土御祖神社は、橿部の神宮神田の近くに鎮座しています。古くは土地の俗称で「茶屋のモンサン」とも呼称されたようです。これは西方のフクロ茶屋と関連するものと思料され、現在でも「茶屋の森」と呼ばれることもある(「茶屋の森さん」の転訛か)といえます。平安時代の書物によれば、「大土御祖社」または「大土神社」と表記されています。今日でいう内宮所属の摂末社は二十四座ありましたが、当社は比較的重い処遇で、七番目に位置付けられていました。

何故でしょうか。本社も倭姫命が祝い定められたとされ、御祭神は国生神(一名大歳神)の御子である大國玉命・水佐々良比古命・水佐々良比売命の三座を祀ります。中世の頃は「所御社」と呼ばれていました。どういう意味でしょうか。なお、延暦23年(804)撰述の『皇太神宮儀式帳』によれば、当社の南に「御刀代田」が存在し、現在の神田に相当すると思われる。何故この地が神御田に定められたのか、考察を巡らせたいと思います。

と き／1月28日(木) 13:30～15:00

講師／音羽 悟 (神宮司庁広報室広報課課長)

参加費／一般1,350円 会員850円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○節気菓子

ふきとう  
露の臺

黄身餡で白餡を包み、仕上げに洋酒を香らせました。  
ほろほろとした食感が楽しめる、春遠からじの露の臺です。

かんぼたん  
寒牡丹

薯蕷を加えた練りきりでこし餡を包み、冬咲きの花ならではの美しさを表現しました。

ふくまめ  
福豆

立春に先立つ二月の節分。  
お多福豆の餡で白餡を包み、節分にちなんだお菓子に仕立てました。